

旭市新庁舎建設市民会議 会議録

日時：平成 30 年 8 月 20 日

午後 3：00～4：30

場所：本庁舎 3 階委員会室

出席者

(委員)

林英光委員（会長・議長）、塙政美委員（副会長）、米本弥一郎委員、加瀬浩委員、戸井穰委員、飯嶋直子委員、川上幸枝委員、遠藤依子委員、新行内正巳委員、向後充委員、林修三委員、小関友紀子委員 以上 12 名
欠席 4 名（阿部真之委員、平野忠作委員、高山和視委員、高橋渉委員）

(事務局等)

市長：明智忠直、総務課長：飯島茂、総務課副課長：穴澤昭和

総務課新庁舎建設班：林大樹、高木正博

受注業者：(株) 横河建築設計事務所（新井敏裕、鈴木光洋）

：コクヨマーケティング（株）（森尾雅士、糸山嘉子）

【会議 開会】

(市長あいさつ)

8 月の初めは猛暑日の報道ばかりで、このところは台風の報道が頻繁に出ています。本当に日本列島は自然災害が多い国だなと、改めて思うところであります。

本日は、14 回目の新庁舎建設市民会議を開催いたします。長きに渡りまして委員として様々な意見をいただきました事を改めてお礼を申し上げたいと思います。

前回の市民会議で報告をさせていただきました基本設計に基づいて、現在、実施設計業務に取り組んでいるところですが、本日は、その中間報告をさせていただきます。特に、事業費については、資材費や労務費の建設費用の動向を踏まえながら、本実施設計では、大規模な地震、震度 6 強以上の地震に対する安全性の確保や業務継続の観点から、建物の耐震性能を十分に確保し、地盤においても国の基準を踏まえ、地盤調査結果に基づく液状化対策を盛り込んでいるところです。

また、来年 10 月 1 日から消費税が 10% に引き上げされることから、2% 分の約 1 億円の対策として、現在の税率 8% が適用される平成 31 年 3 月 31 日までに建設工事の契約ができるように進めているところです。

いずれにしましても、庁舎は建設後 60 年、70 年と使用する施設となりますので、必要な機能については十分に精査して、近年の多発する自然災害に対して、しっかりと安全対策を取りつつ、可能な限り事業費の削減を図っているところです。

そしてまた、先日、旭市七夕市民まつりが開催されましたが、市民との一体感を改めて実感し、盛り上がりを見せたところです。庁舎建設にあたっても、市民と一体となって市の活力、情報が十分発信できる場となることを期待しているところでございます。市民が進んでこの庁舎に集まっていいただけるような、そして英気を養って市の情報をキャッチできるような、そんなすばらしい庁舎にしていきたい、そのような考えでありますので、皆様の色々な面でのご支援とご協力をお願い申し上げます。

(林会長あいさつ)

これまで、設計の打合せを行い大きな方向性は決まりました。その中で、日本一の市庁舎とはどうしたら実現できるのか。私は考え方で実現できると思っています。これからは、日本の縦割りという考え方を、はっきりと連携とか関連というものをしていけないとダメです。お互いの相乗効果で環境全体が生まれるということです。各地で成功しているところは必ず心の拠り所があります。それは人物、歴史、伝統ですが、それをどのようにおさめていくかです。旭市の場合は、日本の農業の先駆者である大原幽学がいます。それから文武両道の歌人である海上胤平、世界外交の加瀬俊一がいます。西欧の博覧会で大変評価された濤川惣助もいます。これだけでも大変な財産です。そういったものをどのように引き継いで、次世代に繋いでいくかということです。これだけでも、オンリーワンができますし、市民の心に、故郷のプライドが生まれてきます。そして、子どもたちに夢と目標ができるような教育方針にもなります。そういった意味で新庁舎は総合的な一つの要素をもっています。

また、新庁舎の建設場所は、長大なロケーションがあります。長い何百メートルという滑走路のような場所で、それもひとつ大きな財産です。それから、文化の杜というからには森にならなければいけない。某大学の先生が、自然の生態系に沿った形で木を植えたら、5年、10年で森になった。それを大企業が取り入れていまして、私の近辺の海岸沿いでも大成功しています。この場所が森作りに対して全国に知れ渡るようにしていきたい。

この写真の黒い部分は、光を遮る農業用の黒いメッシュでした。これだけで十分に目を遮れます、しかも安くていい方法だなと思いました。新庁舎は、白、黒、グレーの形でいきたいですが、こんな利用の仕方、農業らしい方向の応用ができるかなと思いました。

それから、豊橋市では市役所の周りにゴーヤを植えただけでなく、これで料理を作ったり、ジュースを作ったり、市民に振る舞ったりしています。このように市役所と市民の繋がりというものを仕組んでおくことによって、そんなこともできると、非常に心温まる良い方法だと新聞に出ていました。農業や自然に触れ合えるような形の新庁舎になってほしいと思います。吹き抜けの空間には、市民が参加した祭りとか、あるいは四季折々の変化とかを吊り下げたりできるようなフックや電源などを仕組んでおいてもらいたい。子供たちが寄ってきて、あるいは母親と一緒に来て休める不思議な異空間のようなものを簡単に作ることもできる。そういったものを市民の空間に、今までの遊びとは違った一種のアートとしての取り組みを入れたいと思います。また、駐車場ですが、地面もアスファルトではなくて緑化して、特に旭は農業のまちでありますからやってほしいと思います。それ

から、今は情報の時代です。市民スペースなどに大型の画面があり、あるいはマッピングで映る設備、そういうものを仕組んでおくことによって市民に対してアピールできる。市の偉人たちの表現もできるかもしれません。あと、畜産の問題で、臭いとか、色々なことが問題になっています。旭市の将来のことを考えて、今から取り組んでおいてほしいと思います。また、市のキャラクターで、あさピーがありますが、産業である農業の雰囲気を表しています。熊本県のくまモンはあらゆる形で登用されアピールされています。ここは、旭ですからあさピーでもいいし、椿の海だからツバキでもいいし、様々な物に登用できるキャラクターみたいなものを次のステップとして見ていきたいと思っています。それだけで随分変わりますし、夢が沸いてきます。

屋上は、苔を栽培しても構わないし、将来は何をしても良いという形で、できれば給水と排水の設備をしておくことで、様々な応用ができるので、スペースが空いていると思わないでいただきたいと思います。

これからは、おもてなしとか人のことを思うということが非常に大事になってきます。宮崎県日向市は、県の人たちと自治体の人たちと非常に連携がうまくいっている。日本はどうしても縦割り、そんな形ではなく総合的な形でやっていかないと今後の日本の国の衰退は救えないと思います。旭はそれができる資産がありますので、今後の実施設計に対して、ぜひ協力したいと思います。よろしくお願いします。

議 長：議題(1)について事務局の説明を求める。

事務局：新庁舎建設「実施設計」【概要】の中間報告について説明。

- ・資料1 旭市新庁舎建設「実施設計」【概要】(中間報告)について
- ・資料2 旭市新庁舎建設に伴う「財源の試算」について

議 長：議題(1)に関する質疑及び意見を求める。

委 員：免震構造から耐震構造に変更したが最近の庁舎は免震構造が多い。予算の関係もあると思うが再度説明して欲しい。

事務局：当初、免震構造ということで説明をさせていただきましたが、免震構造はランニングコストがかかります。また、地下20mから40mがシルト層の軟弱な地盤のために基礎杭を打ち込む必要があること、そして地下20mまでが液状化の可能性があるので、本日の資料に載せてありますが液状化対策費として約2億8,500万円がかかるということで、事業費を抑える必要があったためです。

委 員：地震に対しての強さというのは耐震性があるかどうかということであり、免震は初期の長い横揺れの周波に対して大きい揺れを緩和しようとするもので、そもそも揺れを弱めるためのものであって、構造的にどうかというものではない。IS

値を0.9から1.0まで安全性を高めるので、構造的には地震に対して問題はない。安全を担保できるという形で、予算が高かろうが、安かろうがそういう必要があれば、絶対に免震構造にしなければいけないが、新庁舎は高い建物ではない。うえ、1階、2階が広い面積、3階、4階が少し小さいので構造的にも耐震構造でいけるのではないかな。

事務局：近年の庁舎建設では確かに免震構造が多いですが、昨年4月に竣工しました白井市は4階建て耐震構造であり、今年4月に竣工した埼玉県吉川市は、当初は免震構造の計画でしたが事業費の面で耐震構造に変更しているようです。

委員：給水関係で、飲料水と雑用水の2系統給水となっている。トイレは雑用水利用とすると飲んでしまう可能性がある。口に入る可能性がある所は必ず上水道でお願いしたい。もう一つはクロスコネクションの心配がある。雑用水と飲料水のパイプは並行して入ってくる。工事の時とか切り替えの時は、もし雑用水がダメで飲料水を使うとなるとバブル切り替えになると思いますが、その時に雑用水のパイプを使って飲料水を使うようになってしまうと大きなクロスコネクションとなり、衛生上の問題があるので完全に系統が分かれるようにしてほしい。

事務局：雑用水はトイレの流すところのみです。現場工事においては、それらがきちんと系統分けできるように、表示を配管やバブルにして、しっかり工事を行います。

委員：液状化対策の工法は。

事務局：砂杭で締め固める工法です。

委員：エントランスの使用材料であるコンクリート磨き出し床とは具体的にどのようなものか。

事務局：コンクリートの床をきれいに磨いて、中の骨材である石の粒を表面に見せる仕上げ材です。

委員：滑りやすくはないか。また、点字ブロックとの区別に問題はないか。

事務局：入口近くはノンスリップという滑り止め加工したものを考えております。点字ブロックは、床がグレー系色なので、点字ブロックが黄色であれば視認性は問題ないと思います。

議長：入口は、しっかり考慮して下さい。ノンスリップの範囲は。

事務局：入口から10m位の範囲をノンスリップ加工で考えております。

委員：免震、耐震構造については、市民の中で心配している方もいる。きちんと市民が納得できる説明をしてもらいたい。

事務局：一般的な建物はIS値0.6が必要と言われていますが、災害時に防災拠点となる建物については、5割増しのIS値0.9とされています。50年後でもIS値0.9が保たれるように、IS値1.0を目指して設計を進めておりますので、まず揺れても建物は大丈夫であるということを市民の皆さまに伝えたいと思っております。

委員：会議結果を市のホームページに載せる際に、耐震と免震の違いは何かという事など、市民が疑問に思っているので、予算も大事けれども、耐震度が落ちているわけではない事を分かり易く説明した資料を同時に載せてはどうか。

事務局：市民に十分に伝わらない部分につきましては、しっかり対応させていただきます。

議長：免震と耐震の場合で、杭打ちの深さは同じなのか。

事務局：杭は建物の重量で決まりますので、免震と耐震で大きくは変わりません。

議長：免震と耐震の金額の違いは。

事務局：免震構造の場合は、建物と地面とを切り離す部分のダンパー、ゴムの金額が増えます。約2億3千万円の事業費の差があります。また、維持コストですが、点検は1回100万円程で5年後、10年後というように点検費用がかかります。

議長：点検時、不具合があった場合はどうするのか。

事務局：キズ等が見つかれば交換となります。

委員：新座市では、市民課にキッズコーナーがありました。決して広いスペースではないが、母親たちの目の届く範囲、呼び出し番号が目に入る範囲にコーナーが設けてあった。旭市でも市民生活課のあたりに設けてはどうか。万が一、子どもが離れても、総合案内の職員がいるので安全である。2階に子育て支援課もあるのでそこも配慮してほしい。母親たちが子どもを連れて安心して手続きができるような庁舎になってほしい。子どもが遊ぶ遊具等も将来的に検討してほしい。

事務局：2階の子育て支援課と健康管理課のカウンターの間にキッズコーナーを考えています。1階の部分については、スペース的に難しいですが、今後検討させていただきます。

議長：市役所は色々な方が出入りをするので、十分な配慮が必要です。

委員：畜産の問題、臭気の問題についてはどのように考えていますか。

事務局：林会長より畜産の臭気問題について事例を紹介していただきました。農水産課と情報共有し各関係者、事業者の方に情報を提供しています。市外から訪れる方からも臭気の意見をいただくこともありますので、各事業者に情報提供して改善していきたいと考えております。

議長：そのようなことがうまくいきますと、健康で安全な住みやすい旭市となると思います。ぜひ進めていただきたい。

委員：畜産業者は補助金を受けてなんとかやっている状況です。臭気対策は当然コストがかかると思います。事業者がすべて負担するのは難しいので、市全体で取り組んでほしい。

議長：個々の対応では難しいと思いますが、そういう意志を持ってもらうことが大事です。すでに岐阜県、三重県では率先して始めています。旭市だけが取り残されては大変なことになってしまいます。先進的なことも考えていく必要があります。

市長：畜産の臭気の問題は、ここ4、5年頭を悩ませている問題であります。はっきりと何をやれば臭気が拡散しないのか、その研究がまだ完全ではない中で、どういった方法が臭気を無くし環境にも影響されないような畜産経営ができるのか、畜産農家も模索している状況です。市としても、色々な方からアイデアを出されるわけですが、先ほど委員が言ったとおり、出された事を実施したり、支援するだけでも大変なお金がかかります。国、県と相談しながら、具体的な方策が出てきた場合には、きちんと対応していかなければならないと考えています。臭気を完全に消して、住みやすい旭市にしたいという気持ちはありますが、具体的な対応策は、まだ確立されていないという中ですので、これからの研究課題とさせていただきたいと思っております。

委員：改めて思うことは、新庁舎建設というのは旭市にとって最大の事業であり、恐らく庁舎建設のご経験があるのは、林会長と設計業者だけで、私ども委員も事務局の皆さんも全く経験がない。事業というものはスケジュールをもって推進してい

くわけですが、来年の３月３１日までに契約ができるかできないかで１億円もの差が出てくる中で、私も議員としてさらに研鑽を積みたいと思っておりますし、議会の方でも議決事項があると思いますので、これから３月３１日に間に合うように、みんなで協力体制、バックアップ体制を取りながら進めていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

議 長：心強いご意見ありがとうございました。一体となってやっていかなければならないということですね。

委 員：合併特例債の償還に関して交付税という形で後から措置されると思いますが、財政課と共にしっかりと管理してほしい。

事務局：国は約束した償還金の７０％の交付税は、しっかりと担保してくれると思っております。

委 員：庇に穴が空いているように見える部分は何か。

事務局：穴のように見える部分は、合わせガラスを想定しております。

議 長：本日の会議を終了する、

【会議 閉会】